



三條南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club



2013.3.12

No.2069

No.27



出席率

会員48名中 23名

先々週の出席率

89.13%

ゲスト

長岡国際交流センター「地球広場」

センター長 羽賀友信様

国際ロータリー第2560地区

ガバナー

鈴木重彦様

市内4 R C 合同例会 識字率向上月間

市内4 R C 合同例会に大勢のご出席ありがとうございます。
講話をしていただきます、長岡国際交流センター長 羽賀友信様、羽賀様を
ご紹介いただきました 鈴木ガバナー、お忙しいところありがとうございます。

今年度市内4 R C 当番クラブとして、4 R C の会長・幹事会、また、担当
委員長も交えて何回か打ち合せをさせていただき、合同事業として2つ計画
しました。

1つは、昨年10月16日・17日と55名の会員で東日本大震災被災地
追悼視察研修として南三陸町に行ってきた。

そして2つめの今回の事業は、11月の地区大会の1日目に羽賀友信様
の講演をお聞きし、その後すぐに4 R C の会長幹事で「是非3月の合同例会
で講演していただき、会員に聞いて欲しい」と意見がまとまり、鈴木ガバナ
ーにお願いいたしました。

『識字率向上月間』に相應しいお話ですのでどうぞご期待下さい。

会長挨拶

三條北ロータリークラブ 会長

早川瀧雄

四つのテスト

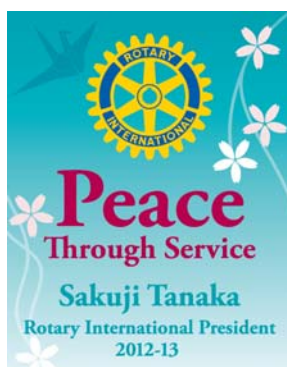
一言行はこれに照らしてから

I 真実かどうか

II みんなに公平か

III 好意と友情を深めるか

IV みんなのためになるか どうか



国際ロータリー会長 田中 作次 [埼玉、八潮]
第2560地区ガバナー 鈴木 重彦 [長岡]
第4分区ガバナー補佐 杉山 太三郎 [巻]

会長 坂井 範夫

幹事 丸山 征夫

S A A 永桶 俊一

事務局 〒955-8666 三條市旭町2-5-10

三條信用金庫 本店内

TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp

URL http://www.sanjo-minami.jp

講師紹介

R I 第 2560 地区ガバナー 鈴木 重吉 様



講師羽賀さんの紹介ですが、お手元に配布されています資料その通りです。ただ特筆すべき点が2つあります。

羽賀さんと私は同年です。本当に古くからの友達で我々の遺伝子は違いますが、物の考え方、アイデンティティーの根っこは一緒だと思っております。そういう2人がよもやこの年でこういう席でこういう場面とは全く・・・ただ感慨深いものがあります。

羽賀さんを尊敬しているのは、江戸時代初期から連綿と続いてきた長岡の内の部分、儒学者の家系、血の流れがしっかりと根付いておられる方だと思っています。常に高い視点で物を捉えて知行合一で考えたことを行動する。できない事は口にするな、一端、口に出

したら死にものぐるいでやる。これを如実に、お手元にあるような活動をずっと続けて来られました。何よりも緒方貞子さん（最初のロータリー国際親善奨学生）の信任が非常に厚い方です。

長岡のセンター長というご紹介をいただきましたが、もっともっとこれから命がある限り、羽賀さんには世界を舞台にして、我々ロータリーが同じように目指す世界平和と一緒にあって取り組んでいける最もいいパートナーだと信じて疑いません。素晴らしいお話だと思いますので興味を持ってお聞きいただければと思います。

「グローバル時代におけるロータリー」

長岡国際交流センター「地球広場」
センター長 羽賀 友信 様

只今、過分なご紹介をいただき非常にプレッシャーを感じています。この頃、言葉の出が良くないので娘に言いましたら「お父さんはアル中ハイマーだ」ぴったしだなと感じる年齢になってしまいました。鈴木さんも似たかよったかですが・・・。

私は今も紛争地に行ったり来たりしています。去年はアフリカのスーダンのアビエの近くにいましたら戦争が勃発しました。日本大使館、病院はない、飛行機がなくなりどうして帰ろうかというような所へ行きました。私はそういう所に送られるケースが非常に多いのです。それは光栄なのです。何があっても帰って来る、日本政府視察団という名目ですが実態は私一人行く事が多いです。



今回は「識字率向上月間」ということでアフガニスタンのお話をさせていただこうと思っております。アフガニスタンという国はあまり正しい報道が日本でされておられません。何故かというとなれないからです。売れる報道だけが日本で流されます。実はそこに住んでいる方達は非常に熱い思いを持って日本を見ています。今までに66ヶ国行きました。殆どが紛争地、または被災地と言われる所です。ハワイはまだ行ったことがないです。私が「海外旅行に行きたい」というとみんな笑います。私が行っているのは今日ご紹介するような所ばかりです。着くとその日、着いた瞬間から大臣と折衝したりしますから全く観光したことがないのです。もともと観光するような場所でもない、お土産もないような場所に行きます。

今日、お見せる映像は、私しか撮れないものです、これが最大のお土産かなと思います。

アフガニスタンは9年前が最初です。好きな国家の一つですが貧困ということでは非常に大変な国家です。日本人大好きと言ってもいい位、日本を信頼してくれている国家です。私も重吉さんも長岡の「米百俵」という故事由来を持っていますが、この国が立ち上がる為に、新しい時代にどう活かすか、哲学に置き換えていくのかと考えています。

「国が興るも滅ぶも人にあり」という長期的なビジョンで人作りをやる。家庭教育が一つ、心と好奇心を育てる。心が育たないお子さんが非常に多い。電車の中で平気で化粧して、食事をして着替えをする。目の前にいる人が人として見えずに風景化している。ですから感ずる心という一番大事なところが外れている。二つ目は学校教育、物事を考える、整理する力だと思っています。三つ目は行動する力、先ほど「知行合一」という言葉を鈴木さんがおっしゃいましたが、「行動する」ここがないと人間は妄想の世界で終わります。行動することによって自

分の力量を知り、現実を知り、そのなかで人格ができる。ここを育成するのが社会の役割、特にロータリーさんがここに占める役割は非常に大きいと思います。

これから世界のお話をしますが、日本では「国際化」と「グローバル化」がごちゃごちゃになっています。元々「国際化」は外交用語です。国と国との関係です。「グローバル化」はインターネット環境で即時性が世界中繋がるようになった中で個人と個人がネットワーク化をしています。ここで生きる人間の気質は今までと違います。日本では沈黙は金ですが、世界では殆ど例外にされています。日本にいいものは沢山あって、私達が上手く発信すれば世界にとって財産になるのですが、残念ながら日本が考えてきた国際化の延長として受信はするが、発信が非常に弱い。世界に冠たる地場産業といえば三条、燕が出てきます。三条はそれぐらいすごいです。

そのなかで私達は時代にあった子供達をどうつくるか。日本人が持っている最大の特性、私達は気がついてないが「思いやる心」です。これは情です。我々は情で社会的環境、人間環境をつくっています。これは日本人にしかわからない感覚です。繊細ですから物作りには非常にいい訳です。この感覚はどこに表れているかというと、ミシュランの星の付いたレストランは本家より日本の方が多い。フランスの人は「日本は×4 があるからだ」と言いますが、これは四季を上手く利用して旬の物でやるという繊細さです。まさに詫び寂びです。この儚さに美を感じる繊細な内に向かう文化だと思います。世界は抗争を繰り返して行くような文化が非常に多い。グローバルスタンダードは何かというと論理学です。論理的に言わないといけない。結論を言ってなぜならばと言うと通りがいいですが、日本人は前置きが長くなります。結論に最初に触れるという文化の人は飽きてしまいます。最後まで聞かないうちに「何を言っているか分からない」これは人間関係を破壊させないための大事な知恵だと思っています。

今、新しい時代を生きる子には論理という、力と情という我々のアイデンティティーとこの二つを上手く切り替えて、両方を大切にする事を社会が一体化しながら育成する時代に来ているのかと思っています。

特にアフガニスタンを取り上げましたのは教育がないというすさまじさです。国ができるということは人材をどう育成して行くか、長期的に食べられる国作りは正に教育に尽きます。

9 年前に行ったとき、カルザイさんに英訳をした米百俵を 50 冊お渡ししてきました。教育省で「21 世紀の米百俵」という話しをしてきました。そこで人材教育というプロジェクトを日本がやろうと昨年からはじめました。10 年間で 500 名を日本の教育機関が受入れる。大学院生として教育を与えて帰す。新潟県では新潟大学、長岡技大、国際大学で受け入れをやっていますが、ニュースになっていないので皆さんご存じないと思います。私達は日本を築いてきた戦後復興の視点をうまく世界に使っています。

余談になりますが、3.11 の時に世界 145 ヶ国から義援金、人を送ってくれています。

我々の産業を支えている途上国といわれる国が非常に多い。1 日 1 ドル以下で生活している困窮者の多いアフガニスタンから貧者の一灯が来ました。8,200 万、そこに込められた思い、添えられた手紙を見たとき涙が止まりませんでした。「私達は辛い思いを内戦でしてきました。あなたたちの辛さに寄り添える資格を持っていると思います。」絵と文章が添えられ、すごい数が届きました。中越地震の時にも来ましたが、この 8,200 万というお金を集めるにはアフガニスタンでは本当に大変だと思います。産業はまだ立ち上がってはいません。路上で売っているようなものがあるだけです。子供達が学習をするということは、イコール社会貢献をするという目標がハッキリしています。

日本の子供に「学校が好きですか」「勉強好きですか」と聞くと大体、手があまり上がりません。世界でもトップクラスの学習環境を持っている日本が…です。アフガニスタンで聞くと飛び上がりそうな勢いで全員が手を上げる。ただ「夢はなんですか」と聞くと「そんな贅沢考えたことがない」「その年まで生きているとは思えない」と悲しい言葉も聞きます。

相互依存関係が生じているこの世界、ここでどういうふうにお互い手を貸しながら支援もお互いにしてもらうという関係「お互いさまネットワーク」を問われているのかと思います。



国連機です。危険で民間機は0でした。

打ち落とされないために人道支援のための飛行機を用意してもらいました。移動は3人なのに3台の車に分乗します。一緒に死なないために。

それぞれ3つの通信機能があり、お互いの連絡・大使館との通信(安全確認のために1時間毎に交信、返答がなければ死、GSP 機能があるため遺体は回収してくれます)・衛星電話(外務省と直結 SOS を出すため)



タリバンによって破壊された遺跡保存に日本が一番お金を出しています





今の街の風景。破壊された壁や煉瓦を売っている、このしたたかさは学ぶべきだと思いました。



壁に大砲の薬莖を使っています。街の2/3がこんな感じですよ



赤はここら先は地雷原。白は無いと思うが100%確証はない。国道の至る所にありました。



地雷の撤去に日本が一番役立っている。国連が作った小学校1年の教科書の最初です。不発弾になった爆弾の絵です。触ってはいけない「死ぬな」というメッセージです。



国境で見つけた14歳の子供を治療してくれたのは新潟大学の先生で三条の人でした。長岡でも学生を受入れています。花火の時期は避けます。私達がきれいと思う花火は彼らにとっては戦場に戻ってしまいます。フラッシュバックを起こします。こうした心のケアも考えなければなりません。



子供が学校に行けないのは水くみ、薪拾い、家畜の世話の為です。子供に地雷の被害が多いのは家畜を連れて緑の中に入っていくからです。



2時間勉強するために5時間歩きます。教育を夢見ていますが、環境ができていません。



首都の一番いい小学校です。天井が無く、壁がありません。

学校です。1m離れると、別の学年(学級)です。



悲惨な中で子供達の笑顔を見ると頑張ろうと思いました。彼らは「勉強＝生きる」です。

夢を持つ、志を持つということは大事だと思います。ドクターになりたいと言った子供は、医療が崩壊して、たくさん家族を亡くしたので、これを通して社会復興に貢献したいと言っていました。どの子も同じように言います。チャンスさえ与えられれば、一生懸命勉強します。教育を通して日本とアフガンは繋がりがあある事を覚えていただきたいと思います。

私達は花鳥風月の民族です。日本人は自然と調和して生きてきた民族です。風とか雨にも色々な名前が付いています。こんな国はないです。繊細な文化です。不幸な第二次世界大戦を経て国際舞台に戻れたのはサンフランシスコ条約です。

今、国連では日本の男子は草食系男子どころでは無く、もっとひ弱になったと評価されています。私達は今、日本の子供を是非、全人格的に誇りを持って出て行ける子を育成しなければいけません。

サンフランシスコ条約締結の時に日本が入ることを反対した欧米各国の中でスリランカの人が「日本人は目標に向かって努力をする、受けた恩に感謝をする事を持っているから復興を遂げたときに世界のお手本になってくれるだろう」と言ってくれました。

欧米人の真似をする事はない、際だった個性を全面に出した方が信頼をもたれる。大事なのは相手によく通じる、コミュニケーションの基本を子供達にどう教えるかです。

私はイスラム教徒が好きです。困ったときにいつも助けてもらいました。イスラム教徒は寛容な宗教です。いろんな宗教を排除しないで受け止めました。

正しい情報で世界を見る、自分で判断できる子供を育成して行く。

みなさんは社会的に立派な方々です。子供達は偉い人に会う必要はないと思いますが、すごい人に出てほしい。信念を持って、夢を持って、理想を持って歩いている人にたくさん出会う欲しい。これがロータリーの皆さんの社会に於ける役割かと思います。

今日はアフガニスタンを通して、世界の一端をご覧いただきました。ご静聴ありがとうございました。

講師プロフィール

羽賀 友信

長岡国際交流センター「地球広場」センター長

1950年 長岡市生まれ

1980年 カンボジア難民救援医療プロジェクト(現国際緊急援助隊の原型)に緒方貞子氏らと共に参加し、国境地帯で病院を運営。帰国後、パレスチナ、アフガニスタン、アセアン、ブータン、ヨルダン、スーダンなどで国際協力に係わる。

現職(2002年より)では、多文化共生社会を目指し「出会い→交流→協働」をコンセプトとした地域づくり・グローバルな人づくりを多面的にコーディネートし、協働による地域力を世界に発信している。中越地震(2004年)、中越沖地震(2007年)の際は外国人被災者の救援に奔走、以来、災害時救援の普及活動やスマトラ沖地震、四川大地震からの復興にも尽力。

市民協働ネットワーク長岡代表理事等、多くの役職を兼務。

外務大臣感謝、2008年 JICA 理事長(緒方貞子) 賞受賞・地域づくり総務大臣表彰・2009年度長岡市表彰。

現在は東日本大震災バックアップセンター(長岡市)の代表として現地支援(陸前高田市)・受け入れ支援(南相馬市)を継続実施中。

2004年、JICA 地球ひろばの国際協力サポーターとしてアフガニスタンを訪問。破壊された装甲車両など、内戦の爪あとが残る現地を視察したほか、長岡市の小学生からの手紙や援助物資を現地の学校と子どもたちに届けた。04年の新潟県中越地震のときには、逆にアフガニスタンの子どもたちから長岡へ多くの励ましの手紙が寄せられた



市内4RC 合同例会

於：燕三条ワシントンホテル



中条パストガバナー講評



杉山三条 RC 会長 懇親会開会挨拶



乾杯は南 RC 坂井会長



中締めは東RC 玉木会長



次週例会 3月25日 温故知新・歴代会長卓話 坂本洋司第40代会長

次々週例会 4月1日 「クラブ・フォーラム&ショートスピーチ」 於：VIP



表紙について
あの日の一枚

…「創立20周年記念式典」ペドロ&カプリシャスとともに
1988年6月5日於：県央地場産業振興センター

三條南ロータリークラブ週報
2013. 3.12
No.2069 No.27